

独りよがりの「独善」と勝手気ままな「自由」

—または、自民党の略称について—

熊…米国藩のトラ殿様は、ますます好き勝手してるようじゃねえですか。

八…氣に食わない奴には戦を仕掛け、もう片方では何やら泰平の世をつくりたいなどと、のたもつてゐるらしい。

萬重…それって偽善じゃねえのか。

古琴…いや、そうとも言えないよ。後の世に、独逸という藩でヒトラーという殿様が暴れて、諸国に大迷惑をかける。他の藩に攻め入ったり、ユダヤという人々を虐殺したりした。そのヒトラー殿様と同様の「独善家」ではあるけどな。

萬重…「独善家」…、「偽善家」ではねえんですか？

古琴…偽善家ではないよ。ヒトラー殿様は自らの「善」を疑わず猛進したのであって、別に「偽善」をするわけではない。同様に、トラ殿様も「偽善」家ではない。自らの「善」を疑うことなく猪突猛進いや虎突猛進しているだけだ。つまり、独りよがりという点では似ている。

萬重…なるほど、偽善というより、自分の善しか信じない「独善」っ

てことか。

古琴…ヒトラー殿様もトラ殿様も、折り紙つきの独善家だね。多様な善をすり合わせしながら、どのようにに現実的な道を検討・選択していくのか、そこには「政治的偽善」がいるけどね。

八…トラ殿様は、俺はこんな良いことをしてきたから、褒美、え〜つとノーベル平和賞でんですか、それをよこせって、わめいていらしいですな。

熊…それは野暮じゃねえのか。自分のことを誉めるなんて周りに言うのは、江戸っ子から見ると野暮の骨頂だね。

八…さりげなく、皆が誉めてくれるように仕向けるのはまだしもだけどな。てめえで言うとな、それだけ逆に小さく見えてしまふな。

萬重…粹じゃねえな。

「自民党」は何の略か

古琴…ところで、密かに出回っている「未来史年表」に最近改訂版が出たらしい。耕書堂、お前さんのところでは扱っていないかい？

萬重…え、知りやせんぜ。どうしたんです？

古琴…それによると、先の世で天下を取り続ける「自由民主党」という政（まつりごと）を担う連中がいるそう。その略称が「自民党」だとされているが、最近はどうも「自民党」とは別の名称の略に変わったという噂なんだよ。

八…どういふことなんだ？

古琴…「自由民主党」の略ではなく、「自国民族党」の略だということらしい。

萬重…つまり、日の本（ひのもと）の中で、我が国の者だけをありがたがって、異国から来た人は邪険にするということですかね。

古琴…さすが耕書堂、その通りだな。

「自由」とは勝手気まま？

古琴…ところで、お前さんたち、「自由」って、どんな意味で使っているのかね？

八…え、そりや「思ったままに振る舞う」ってことってしょ。良い意味でも悪い意味でもありまふさあ。熊公みたいに、出たところ勝負、勝手気ままにやるのも「自由」じゃ

ないすか？

熊…おい八、好き勝手言いやがって（バシッ）。

八…俺も「自由」にものを言ったってこったな（苦笑）。

萬重…旦那、それ、別の意味があるんですか？

古琴…噂を聞いていないか。未来に出る書物、『たとえば「自由」はリバティか』という本が評判だ（注一）。

八…へえ、どんなことが書いてあるんすか？

古琴…「自由」というのは、私達の時代では八つつあんの言うとおり、良くも悪くも「思い通りにする」というような意味だ。ご公儀的に規律を求める方々の間では、あまり良い意味ではないかもしれないがね。

萬重…確かに、あつしも「自由奔放」に生きているって、お上に大分絞られました。

八…たしかに、耕書堂は「身上半減」なんてくらっちゃったし、すげえよ。

古琴…そうだな。萬重は先の世では、べらぼうに高く評価されるはずだよ。

萬重…そうですか、そうだと良いんですが、なんせ先の世では「評判は下から二番目」だそうでした（注二）。

古琴…解せないね。そつと先の世のテレビなるものを覗いてみたのだけど、それこそ、べらぼうに良くできた話だった。役者も、演出も、楽曲も、べらぼうに良かった。どうも読者が追いつけない本があるのと同じで、見る者の程度と合わないかったのかもしれない。

熊…オレ達、江戸っ子には、あの江戸言葉と言葉遊びが楽しいって評判ですがね。田舎もんが多くなっちゃったかな。

八…こら、言葉を慎め、地方の方に失礼だろ（バシッ）。

「自由」な国はやりたい放題できる？

古琴…ところで、先の世に「幕末」という時代が来る。海の彼方からいくつもの西洋の国が我が国を訪ねて、「商いをしよう」と言い寄るんだ。西洋の国々は基本的に制約のない国なので仲良くなれるはずだ、貿易相手として最適だと言ってくる。

萬重…ほう、それは良いことですね。源内先生も、もつと我が国は門戸を開いた方が良く、盛んにおっしゃってましたぜ。

古琴…ところがその時、長崎の通詞がエゲレス語の「リバティ」という言葉を「自由」と訳してしまったのだな。

八…え、それって西欧は「勝手気まま、好き勝手な国々」で、それが「やりたい放題させろ」と言っているように聞こえますぜ。

萬重…八つつあん、今日はさえているね。熊公が冬眠しているからかね？

熊…うるせい、萬重（バシッ）。

八…で、どうなるんですか？

古琴…見事に、決裂するそう。

萬重…その本には、そんな逸話が入っているのですか？

古琴…ああ、「自由」の他に「権利」「法」「自然」「公／私」「社会」とあるようだ。

萬重…読みてえな。耕書堂に持ち込んでくれないかね。

八…また、禁書扱いになってお縄を頂戴しねえか。心配だぜ。

萬重…ということで気づいたのですが、自由民主党の「自由」は、

オレ達の時代のように「勝手気まま」「好き勝手」という意味で使うわけですね。

古琴…さすが察しが速い。自民党とは、いつの間にか「金権まつりごと」や「やりたい放題」の「自由」をし過ぎて「独善」に陥り、人心が離れてしまふんだな。それを取り戻そうとして、自国民族優位だと強がる名称に衣替えするってことのような。そう未来年表の改訂版に書いてあるらしい。

熊…八・萬重…なるほど、そりや野暮の骨頂だ。

~~~~~

正月の与太話、お粗末様でございました。今年も、どうぞよろしく願います。

（注一）『たとえば「自由」はリバティか』西洋の基礎概念とその翻訳語をめぐる6つの講義 岩波書店、2025年

（注二）NHKの大河ドラマ『べらぼう』萬重栄華乃夢嘶の平均視聴率は、歴代ワースト記録2位だった

~~~~~

「こころ・ゆづそう」

昭和の東京に生まれ育つ。若い世代の育成、企業革新等に取り組む一方、お小言を言いたいことが多過ぎるこのご時世、文筆活動にも乗り出す。